

舶工 第566号
令和7年2月17日

会 員 各 位

一般社団法人 日本船用工業会
専務理事 澤山 健一
(公印省略)

次世代海洋エンジニア会 三期生（若手技術者交流会事業）への参加募集について（ご案内）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当会技術開発戦略検討委員会においてとりまとめた「今後の技術開発事業のあり方について」では、従来にはない全く新しい発想による技術開発につなげるためには、同業他社あるいは異業種・他分野の技術者との交流を通じて、10年後を見据えた各社の将来を担う優秀な若手技術者の連携を深める取組みにより、将来的に新たなアイデアの発掘や、技術的な協力体制の構築等へ繋げていくことが求められています。

この方針に基づき、技術開発戦略検討委員会及び同WGの検討を経て、当会では2022年より船社・造船・舶用の各社の将来を担う若手技術系社員を対象とした交流会事業を実施してまいりました。

その後の技術開発戦略検討委員会及び同WGでの審議の結果、本事業を継続するとともに、海事クラスター（船社・造船・舶用・保険・船級等）全体へと対象を拡大し、年間合計4回のプログラムとして実施する方針となりました。

つきましては、本事業への参加をご希望の会員企業におかれましては、**来る3月21日(金)までに**、添付申込フォームよりお申し込みいただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

<実施計画>

- ・次世代海洋エンジニア会 三期生の実施計画（別添）

<申込フォーム>

- ・<https://forms.office.com/r/LG6FbFmFxp>

(問い合わせ先)

一般社団法人日本船用工業会 技術部 三田村 / 和間

TEL : 03-3502-2041 FAX : 03-3591-2206

E-mail: mitamura@jsmea.or.jp

以上

次世代海洋エンジニア会 三期生（若手技術者交流会事業）の実施計画

1. 事業名

次世代海洋エンジニア会 三期生 (NGMEA 3rd gen) Next Generation Marine Engineer Association

2. 目的

【会員企業】

今後の船用工業を支える若手技術者職員の（i）技術者の能力向上、育成（ii）海事クラスター内の技術者の交流、ネットワーキング（iii）異分野の技術者との交流を通じた意識改革（iv）異分野と連携した新しい発想に基づく製品開発の機会の創出を提供し、10年後を見据えた各社の将来を担う優秀な若手技術者間の深い交流を築くことを目指した交流会とする。

【非会員】

今後の海事産業を支える優秀な若手社員に対し、海事クラスター内のネットワーキングの構築、業界課題に対する協調領域の発見、具体的な解決策の立案の場を提供し、各社の将来を担う若手社員との深い交流を築くことを目的とした交流会とする。

3. 対象者及び研修人員

（1）会員：会員会社の将来を担う優秀な若手技術系社員（原則として、経験年数5年以上概ね40歳以下）*1

非会員：海事産業の将来を担う各社の優秀な若手社員（原則として、経験年数5年以上概ね40歳以下）

（2）会員30名、非会員20名程度（最低開催人数40名）*2

（3）実施期間中は原則同じメンバー*3

*1. 過去に実施した若手技術者交流会（トライアルメンバー）並びに若手技術者交流会（一期、二期）の参加者も歓迎します。

*2. 多数のご応募を頂いた場合、各社からの参加人数の調整もしくは、先着順とさせていただきます。

また参加人数が最低開催人数（40名）を下回った場合は開催を見送らせていただきます。

*3. 本交流会は1年間のプログラムを通じてネットワーキングを行うことを目的としていることから、可能な限り同一参加者が全プログラムを通じて参加する様、お願いします。

4. 日程と場所

2025年度の1年間を実施期間とし、下記日程を通して交流会を行う。

	日 程	場 所
① 第1回	2025年5月28-30日（2泊3日）	大阪
② 第2回	2025年7月9-11日（2泊3日）	山口
③ 第3回	2025年9月24-26日（2泊3日）	広島
④ 第4回	2025年12月5日（1日）	東京

*期間中、参加者には上記日程以外に課題等に取り組んでいただく場合があることについて、ご理解をお願いします。

*上記日程は変更の可能性がございます。

5. 費用

40万円/人

*上記日程において、参加者に関わる交流会中の宿泊・食事・懇親会・研修に関わる費用並びに事業運営費を含んでおります。

*プログラム中、研修及び見学先へ移動（鉄道・連絡船など）を行う場合がございますが、その際の交通費は含まれておりません。

*ご請求については、第1回～第4回の参加費40万円/人をプログラム開始前（4月頃）に行います。

*なお、参加費お支払い後の返金要請はお受けしておりませんので、予めご了承ください。

6. 交流会の形式及び内容（予定）

内容は下表の通り。

	プログラム	内容
①第1回 (合宿) 2025年 5月	キックオフ	顔合わせ、自己紹介、アイスブレイク、交流会の目的及び意識合わせ。
	アイデアソン	「社会課題の解決を前提としたアイデア発想」と題して海事クラスターで協力して取り組むべき協調領域についてアイデア発想・中間報告を行う。
	船内見学	神戸大学の協力の下、同校の保有する練習船「海神丸」にて、船橋・機関室などの船内見学を行い、機器配置、船内構造等の理解を深める。
	施設見学	異分野・異業種の研究施設等を見学予定
	懇親会（BBQ）	参加者同士の交流を深める。
②第2回 (合宿) 2025年 7月	施設見学	KDDI㈱の協力の下、同社が運営する「パラボラ館」及び衛星通信センターの見学を予定
	アイデアソン	「社会課題の解決を前提としたアイデア発想」と題して海事クラスターで協力して取り組むべき協調領域についてアイデア発想・中間報告を行う。
	懇親会	参加者同士の交流を深める。
③第3回 (合宿) 2025年 9月	船内調査&乗船実習（広島丸）	広島商船高等専門学校の協力の下、同校の保有する練習船「広島丸」にて船内調査、乗船体験を行う。
	アイデアの具現化	検討したアイデアを実際に形にしてみる。
	アイデアソン（意見交換&まとめ）	全体でアイデアの意見交換を行い、フィードバック内容を元にアイデアブラッシュアップ。
	懇親会	参加者同士の交流を深める。
④第4回 2025年 12月	成果報告会	当会の技術開発戦略検討委員会、同WGの委員及びアドバイザー及び参加企業上長を来賓として招き、コンテストを行う。

*実施内容については、今後変更の可能性のあることをご承知おき願います。

以上

報道各位

一般社団法人日本船用工業会

次世代海洋エンジニア会二期生 第1回交流会を実施

今般、当会会員企業における若手技術者の人材育成の一環として、「次世代海洋エンジニア会二期生 (NGMEA 2nd gen : Next Generation Marine Engineer Association)」の第1回交流会を、5月15日～5月17日の2泊3日にわたり、企業44社57名の参加を得て実施した。本事業では、同一メンバー参加の下、1年間で計4回の交流会を実施することとしている。なお、一期生では船用、船社及び造船が参加して実施したが、二期生では、更に金融・保険、船級等からも参加している。

本事業は、平成30年10月に当会技術開発戦略検討委員会で取り纏めた「今後の技術開発事業のあり方」において、今後の船用工業を支える若手技術者職員の、①技術者としての能力向上・育成、②海事クラスター内の技術者の交流・ネットワーキングの構築、③異分野の技術者との交流を通じた意識改革、④異分野と連携した新しい発想に基づく製品開発の機会の創出が必要とされたことを受けて、10年後を見据えた各社の将来を担う優秀な若手技術者間の深い交流を築く機会を提供することを目的としている。

第1回交流会は、合宿形式でアイデアソンとグループワークを行うとともに、阪九フェリー「せつつ」の船内見学を実施した。

1日目は、福岡県の小倉を拠点とし、「海事産業を取り巻く課題と次世代海洋エンジニア会」と題したインプットトークやアイスブレイクを実施した。はじめは、メンバー間に緊張感が漂う雰囲気であったが、アイスブレイクや懇親会を通じてほぐれたように見受けられた。

2日目は、アイデアソン事業を運営するNEWRON(株) (ファシリテーター：西井香織氏、グラフィックレコーダー：原純哉氏) の協力の下、「20年後の海事産業において世界をリードするためのアイデア創造」をテーマに掲げ、アイデアソンを実施した。また、今回の新たな試みとして、阪九フェリー(株)の協力の下、同社取締役 海務部長の山口隆弘氏による会社紹介及び質疑応答の後、新門司～神戸間で運航する「せつつ」の出航作業見学、船橋及び機関室の見学を実施した。その後、船内レストランで懇親会も実施した。

3日目は、「せつつ」にて神戸港に到着後、兵庫県三ノ宮を拠点とし、人材・組織開発事業を手掛ける(株)HR インスティテュートの協力の下、グループワークを通じてチームビルディングを実施した。グループワークでは神戸市内でフィールドワークを行った後、デザイン思考を基に、チームごとにディスカッションを行った。

初日は緊張した面持ちであった参加者も、3日間の合宿を通じて交流を深め、グループワークやアイデアソンを通して、日常とは違う異業種間の自由闊達な意見交換を積極的に行

っている様子が見て取れ、成功裏に終了した。

1. 実施期間：令和6年5月15日（水）～5月17日（金）
2. 実施場所：小倉・阪九フェリー（せつつ）・神戸
3. 参加者：44社57名（50音順）

アイメックス、赤阪鐵工所、潮冷熱、宇津木計器、MTI、大島造船所、カシワテック、神奈川機器工業、川崎汽船、川崎重工業、京泉工業、ササクラ、サンフレム、商船三井、商船三井テクノトレード、新日本海フェリー、第一中央汽船、大晃機械工業、ダイハツディーゼル、田邊空気機械製作所、帝国機械製作所、東京海上日動火災保険、東京計器、中北製作所、ナブテスコ、西芝電機、日本海事協会、日本シップヤード、日本政策投資銀行、日本造船技術センター、バルチラジャパン、阪九フェリー、阪神内燃機工業、BEMAC、ヒエン電工、日立ニコトランスミッション、福井製作所、古野電気、ボルカノ、MarineSL、三浦工業、三菱重エマリンマシナリ、明陽電機、ヤンマーパワーテクノロジー

4. 実施内容

	プログラム	内容
第1回 (合宿)	キックオフ	顔合わせ、自己紹介、アイスブレイク、交流会の目的及び意識合わせ。
2024年 5月	アイデアソン(前半)	「20年後の海事産業において世界をリードするためのアイデア創造」をテーマに、海事クラスターで協力して取り組むべき協調領域についてアイデア発想を行う。
	船内見学&意見交換会(阪九フェリー)	船橋、機関室などで船内見学を行い、機器配置、船内構造等の理解を深める。
	グループワーク(チームビルディング)	チームビルディング研修を実施し、業種間の枠を超えた関係性を構築する。
	懇親会	参加者同士の交流を深める。

(事務局問合せ先)

技術部 三田村/和間 TEL: 03-3502-2041 E-mail: mitamura@jsmea.or.jp

以上



アイデアソン①



アイデアソン②



阪九フェリー(株)山口取締役による講演



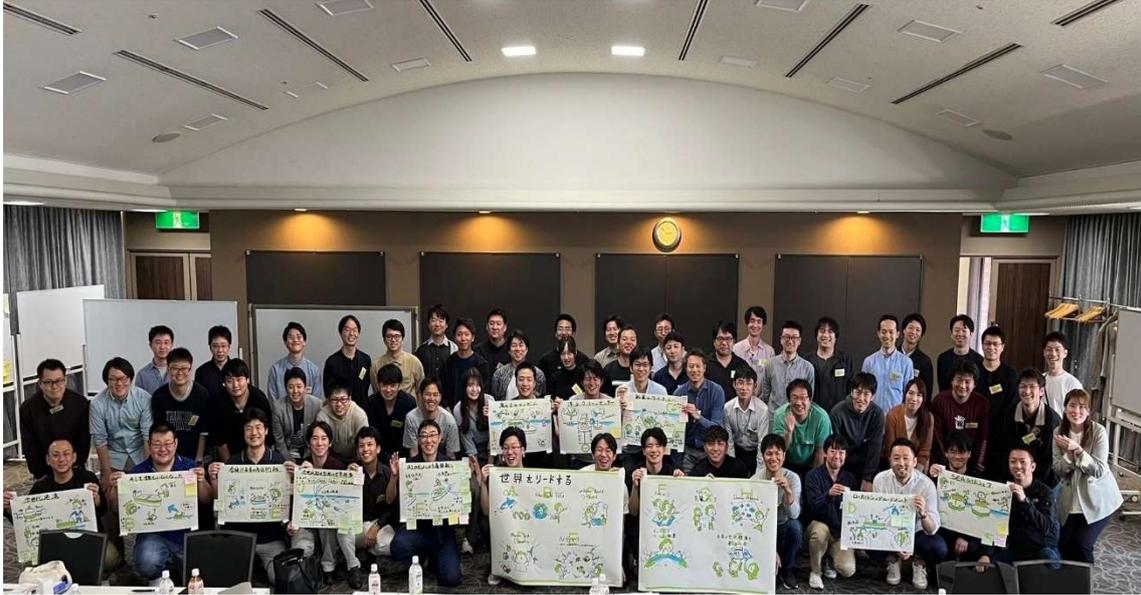
船内見学の様子



グループワーク①



グループワーク②



集合写真①



集合写真②

報道各位

一般社団法人日本船用工業会

次世代海洋エンジニア会二期生 第2回交流会を実施

今般、当会会員企業における若手技術者の人材育成の一環として、「次世代海洋エンジニア会二期生（NGMEA 2nd gen : Next Generation Marine Engineer Association）」の第2回交流会を、7月24日～7月26日の2泊3日にわたり、企業42社55名の参加を得て実施した。本事業では、同一メンバー参加の下、1年間で計4回の交流会を実施することとしている。

本事業は、平成30年10月に当会技術開発戦略検討委員会を取り纏めた「今後の技術開発事業のあり方」において、今後の船用工業を支える若手技術者職員の、①技術者としての能力向上・育成、②海事クラスター内の技術者の交流・ネットワーキングの構築、③異分野の技術者との交流を通じた意識改革、④異分野と連携した新しい発想に基づく製品開発の創出が必要とされたことを受けて、10年後を見据えた各社の将来を担う優秀な若手技術者間の深い交流を築く機会を提供することを目的としている。

第2回交流会は、合宿形式でアイデアソンを行うとともに、アジア太平洋トレードセンターにて「5G×LAB・IATC・おおさかATCグリーンエコプラザ」の見学、またAI研修として生成AIエンジンの活用法についてワークショップ（WS）を行った。

1日目は、アジア太平洋トレードセンターを訪問し公益財団法人 大阪産業局のご協力の下、異分野異業種における「5G活用事例や検証現場の見学、IoT人材の育成と生産ラインの自動化に関する見学、環境ビジネスの先端事例の見学」を実施し参加者の意識改革へ繋げた。また夕食会からは当会の木下会長（ダイハツディーゼル株）も同席し、参加者一同に対し本交流会への期待が述べられ、一段と参加者の団結力も高まった。

2日目は、AI研修として佐藤広大氏（株）ミコルを招き「AIエンジンの仕組み・実業務への活用、応用方法」と題しWS形式で実施した。また、第1回交流会から引き続きアイデアソン事業を運営するNEWRON株（ファシリテーター：西井香織氏）の協力の下、「社会課題の解決を前提としたアイデア発想」をテーマに掲げ、アイデアソンを実施した。

3日目は、アイデアソンの続きとしてアイデアの検討並びに、最終回となる第4回の成果報告会に向けた展示物の検討、資料作成作業に取り掛かった。

回を重ねるごとに参加者の積極性が増し、それに伴って活発な議論が行われている様子が見て取れ、本交流会を通じて若手技術者の熱量が今後も高まることが期待されている。

1. 実施期間：令和6年7月24日（水）～7月26日（金）
2. 研修場所：ホテルフクラシア大阪ベイ
3. 施設見学：5G×LAB・IATC・おおさかATC グリーンエコプラザ
4. 参加者：42社55名（50音順）
 (株)赤阪鐵工所、潮冷熱(株)、(株)宇津木計器、(株)MTI、(株)大島造船所、
 (株)カシワテック、神奈川機器工業(株)、川崎汽船(株)、川崎重工業(株)、(株)京泉工業、
 (株)ササクラ、(株)サンフレム、(株)商船三井、商船三井テクノトレード(株)、
 第一中央汽船(株)、大晃機械工業(株)、ダイハツディーゼル(株)、(株)田邊空気機械製作所、
 (株)帝国機械製作所、東京海上日動火災保険(株)、東京計器(株)、(株)中北製作所、
 ナブテスコ(株)、西芝電機(株)、(一財)日本海事協会、日本シップヤード(株)、
 (株)日本政策投資銀行、(一財)日本造船技術センター、バルチラジャパン(株)、
 阪九フェリー(株)、阪神内燃機工業(株)、BEMAC(株)、ヒエン電工(株)、
 (株)日立ニコトランスミッション、(株)福井製作所、古野電気(株)、ボルカノ(株)、(株)MarineSL、
 三浦工業(株)、三菱重エマリンマシナリ(株)、明陽電機(株)、ヤンマーパワーテクノロジー(株)

5. 実施内容

	プログラム	内容
第2回 (合宿) 2024年 7月	施設見学	「5G×LAB・IATC・おおさかATC グリーンエコプラザ」を訪問し、5G活用事例や検証現場の見学、IoT人材の育成と生産ラインの自動化に関する見学、環境ビジネスの先端事例の見学を実施し、異業種連携並びに異分野技術を通じた意識改革へ繋げる。
	研修	AI活用、デジタルに関わる研修としてChatGPT活用法を学ぶ。
	アイデアソン	社会課題の解決を前提としたアイデア発想とプロト設計を行う。
	懇親会	参加者同士の交流を深める。

(事務局問合せ先)

技術部 三田村/和間 TEL: 03-3502-2041 E-mail: mitamura@jsmea.or.jp

以上



施設見学の様子



AI 研修の様子



アイデアソン①



アイデアソン②



集合写真

報道各位

一般社団法人日本船用工業会

次世代海洋エンジニア会二期生 第3回交流会を実施

今般、当会会員企業における若手技術者の人材育成の一環として、「次世代海洋エンジニア会二期生 (NGMEA 2nd gen : Next Generation Marine Engineer Association)」の第3回交流会を、9月25日から9月27日の2泊3日で、企業42社53名の参加を得て実施した。本事業では、同一メンバーの参加を前提に、1年間で計4回の交流会を実施することとしている。

本事業は、平成30年10月に当会技術開発戦略検討委員会で取り纏めた「今後の技術開発事業のあり方」において、今後の船用工業を支える若手技術者職員の、①技術者としての能力向上・育成、②海事クラスター内の技術者の交流・ネットワークの構築、③異分野の技術者との交流を通じた意識改革、④異分野と連携した新しい発想に基づく製品開発の創出が必要とされたことを受けて、10年後を見据えた各社の将来を担う優秀な若手技術者間の深い交流を築く機会を提供することを目的としている。

第3回交流会では、合宿形式の研修に加え、広島商船高等専門学校の所有する練習船「広島丸」での乗船体験を行った。また第2回交流会で実施した「20年後の海事産業において世界をリードするためのアイデア創造」をテーマにしたアイデアソンをもとに、第4回交流会で行われる成果報告会に向けた展示物や資料の作成も行った。

1日目は、広島商船高等専門学校の協力のもと、練習船「広島丸」での乗船体験および船内見学を行い、船内機器の設置状況や、船員による機器の操作などについて学んだ。夜には懇親会を行いメンバー間の交流促進を図った。

2日目は、アイデアソン事業を運営するNEWRON(株) (ファシリテーター：西井香織氏) の協力のもと、「プレゼン資料作成WS (ワークショップ)」を通じて資料作成のコツを学び、そのノウハウを活かして、第4回交流会で行われる成果報告会に向けたデモ機やポスター等の展示物の作製や、プレゼン資料の準備を行った。また夜には懇親会を実施し、メンバー同士の交流をさらに深めた。

3日目は、NEWRON(株) (ファシリテーター：西井香織氏) による、「ピッチ練習WS」を実施し、効果的な発表手法を学び、2日目に続き成果報告会に向けた準備作業を行った。

第4回の交流会では、業界の経営者層に対し、班ごとに事業案の発表やポスターセッションを行う予定としている。

今回で3回目を迎えた合宿形式の交流会では、異業種間での活発な意見交換や協力が見られ、業種や職種の垣根を超えた関係性の構築が期待される。

1. 実施期間：令和6年9月25日（水）～9月27日（金）
2. 研修場所：TKP ガーデンシティ広島
3. 施設見学：広島商船高等専門学校 練習船・広島丸
4. 参加者：42社53名（50音順）
 (株)赤坂鐵工所、潮冷熱(株)、(株)宇津木計器、(株)MTI、(株)大島造船所、
 (株)カシワテック、神奈川機器工業(株)、川崎汽船(株)、川崎重工業(株)、(株)京泉工業、
 (株)ササクラ、(株)サンフレム、(株)商船三井、商船三井テクノトレード(株)、
 第一中央汽船(株)、大晃機械工業(株)、ダイハツディーゼル(株)、(株)田邊空気機械製作所、
 (株)帝国機械製作所、東京海上日動火災保険(株)、東京計器(株)、(株)中北製作所、
 ナブテスコ(株)、西芝電機(株)、(一財)日本海事協会、日本シップヤード(株)、
 (株)日本政策投資銀行、(一財)日本造船技術センター、バルチラジャパン(株)、
 阪九フェリー(株)、阪神内燃機工業(株)、BEMAC(株)、ヒエン電工(株)、
 (株)日立ニコトランスミッション、(株)福井製作所、古野電気(株)、ボルカノ(株)、(株)MarineSL、
 三浦工業(株)、三菱重エマリンマシナリ(株)、明陽電機(株)、ヤンマーパワーテクノロジー(株)
5. 実施内容

	プログラム	内容
第3回 (合宿) 2024年 9月	船内見学&乗船実習	広島商船高等専門学校の協力の下、同校の保有する練習船「広島丸」にて船内見学、乗船体験を行う。
	アイデアの具現化	第2回交流会で実施したアイデアソンの続きとして、成果発表会に向けたピッチ練習、ポスター作製、デモ品製作を行う。
	懇親会	参加者同士の交流を深める。

(事務局問合せ先)

技術部 三田村/和間 TEL：03-3502-2041 E-mail：mitamura@jsmea.or.jp

以上



乗船見学の様子①



乗船見学の様子②



アイデアの具現化



懇親会



広島丸にて集合写真

報 道 各 位

一般社団法人日本船用工業会

次世代海洋エンジニア会二期生 第 4 回交流会を実施
- これまでの集大成となる成果報告会を実施 -

今般、当会会員企業における若手技術者の人材育成の一環として、「次世代海洋エンジニア会二期生 (NGMEA 2nd gen : Next Generation Marine Engineer Association)」の第 4 回交流会を、11 月 22 日に成果報告会として実施した。本事業では、同一メンバーの参加を前提に、海運・造船・船用・船級・金融・保険・団体より 43 社 56 名の参加の下、1 年間で計 4 回の交流会を実施した。

本事業は、平成 30 年 10 月に当会技術開発戦略検討委員会で取り纏めた「今後の技術開発事業のあり方」において、今後の船用工業を支える若手技術者職員の、①技術者としての能力向上・育成、②海事クラスター内の技術者の交流・ネットワーキングの構築、③異分野の技術者との交流を通じた意識改革、④異分野と連携した新しい発想に基づく製品開発の機会の創出が必要とされたことを受けて、10 年後を見据えた各社の将来を担う優秀な若手技術者間の深い交流を築く機会を提供することを目的としている。

第 4 回交流会では、業界経営層・参加者上長を 41 社 56 名、来賓として招き、参加者 56 名が 10 チームに分かれ「社会課題の解決を前提としたアイデア発想」をテーマに検討を進めてきたアイデアのピッチ発表、ポスターセッションを実施し成果報告を行った。ポスターセッションではポスター展示とデモ機展示を行い、来賓と参加者間で活発なディスカッションを行う姿が見て取れた。参加者にとって、来賓からの直接的なフィードバックを得ながら、様々な業界経営層の視点を学ぶ貴重な機会となった。

下記評価ポイントに基づき来賓による投票を行い、以下の結果となった。

【評価ポイント】

①	我が国海事産業の発展及び国際的な競争力向上に寄与する取組みとなっているか。
②	社会課題を的確に捉え、具体的な解決策となっているか。
③	海事クラスターそれぞれに Win-Win となる取組みとなっているか。
④	仮説検証によって実現可能性を示せているか。

【投票結果 (上位 3 チーム)】

1 位	これがホントの宇宙船!? 宇宙太陽光発電で無限に走る未来の船
2 位	アーム付きバージとリモート操作で港湾制限無しで荷役作業を実現
3 位	バラスト水を真水に ~途上国の水不足へのアプローチ~

今回で二期プログラムは終了となるが、来年度より三期生の募集を行い、継続的に事業運営を行っていく予定としている。

1. 実施期間：令和6年11月22日（金）
2. 研修場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 京橋
3. 参加者：42社54名（50音順）

(株)赤坂鐵工所、潮冷熱(株)、(株)宇津木計器、(株)MTI、(株)大島造船所、
 (株)カシワテック、神奈川機器工業(株)、川崎汽船(株)、川崎重工業(株)、(株)京泉工業、
 (株)ササクラ、(株)サンフレム、(株)商船三井、商船三井テクノトレード(株)、
 第一中央汽船(株)、大晃機械工業(株)、ダイハツディーゼル(株)、(株)田邊空気機械製作所、
 (株)帝国機械製作所、東京海上日動火災保険(株)、東京計器(株)、(株)中北製作所、
 ナブテスコ(株)、西芝電機(株)、(一財)日本海事協会、日本シップヤード(株)、
 (株)日本政策投資銀行、(一財)日本造船技術センター、バルチラジャパン(株)、
 阪九フェリー(株)、阪神内燃機工業(株)、BEMAC(株)、ヒエン電工(株)、
 (株)日立ニコトランスミッション、(株)福井製作所、古野電気(株)、ボルカノ(株)、(株)MarineSL、
 三浦工業(株)、三菱重エマリンマシナリ(株)、明陽電機(株)、ヤンマーパワーテクノロジー(株)

5. 実施内容

	プログラム	内容
第4回 (成果報告会)	ピッチ発表	班毎に5分以内でピッチ発表を行う。
	ポスターセッション	パネル及びデモ機の見学を行う。また、評価者による採点をもとに順位付けも行う。
2024年 11月	表彰式・祝賀会	採点結果をもとに、上位3チームの表彰立食形式で、参加者及び来賓間の交流を促す。

(事務局問合せ先)

技術部 三田村/和間 TEL: 03-3502-2041 E-mail: mitamura@jsmea.or.jp

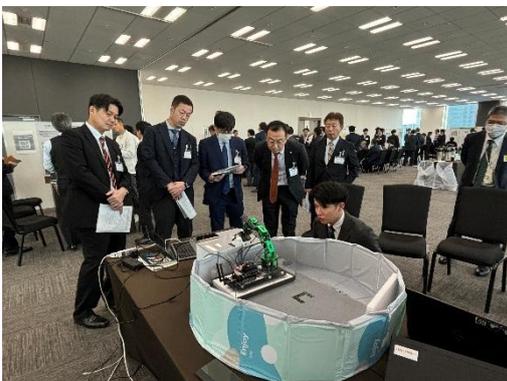
以上



ピッチ発表の様子



ポスターセッション（ポスター説明）



ポスターセッション（デモ機展示）



表彰式・祝賀会



集合写真